

# KLIS TODAY

No.  
6

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162  
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

## 新入生歓迎会

松野 渉

こんにちは。2009年度春日キャンパス新入生歓迎委員会委員長を務めさせていただきました、知識情報・図書館学類2年次 松野渉です。今年度は、新歓委員会として、知識情報・図書館学類、情報メディア創成学類の境界を越えて40人あまりの2年生が集まり、春日キャンパスにやってくる新入生達に少しでも楽しんでもらいたいという想いで、昨年度の秋から準備を重ねて来ました。具体的には春日宿舎での入居支援、新歓パーティ、天王台キャンパスを含めた大学案内、BBQパーティ等を企画し、他にも新入生を対象とした履修・生活の相談コーナーの設置等を行いました。新歓活動中は、新入生・新歓委員双方が目一杯楽しむ事ができ、今年度の新歓活動は大成功だったと言って良いと思っています。今回、私は委員長という立場で、新歓活動に関わらせて頂きましたが、新歓活動が大成功を収められたのは決して私一人の力ではなく、多くの皆様のご協力、そして何より新歓委員のメンバー一人一人の力があっての事です。大学職員の皆さん、先生方、そして誰よりも一緒に新歓活動を作り上げていったメンバー全員に感謝しています。



感謝しています。

(まつの・わたる 知識情報・図書館学類2年次)



## 1期生（3年生）が専門課程の主専攻に配属

松本 紳

知識情報・図書館学類の第1期生はいよいよ3年生となり、主専攻に配属になりました。今年度の各主専攻の配属人数は次のとおりです。

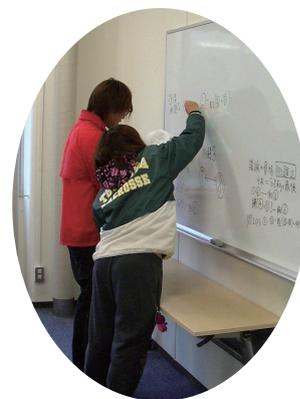
知識科学主専攻(28名)	知識情報システム主専攻(36名)	情報経営・図書館主専攻(53名)
--------------	------------------	------------------

各主専攻に配属された学生は、主専攻ごとに開講される専門科目を重点的に履修することで、より深い専門性を身につけるとともに、卒業研究もその主専攻担当教員のもとで行うことになります。

### ◎主専攻実習

この主専攻ごとに必修科目として3年次の1、2学期を通して主専攻実習を行います。専門領域の基礎的・実践的な専門知識・技術を習得することが目的です。主専攻実習では主専攻のテーマに沿った内容についてグループ学習をしたり、それぞれが調査したことをプレゼンテーションしたり、あるいは実際にシステムを構築したりするなど、3学期から始まる卒業研究の前段階的な役割も担っています。

そのために昨年度、主専攻実習のための実習室を2部屋整備しました。



### ◎ワークショップラボ

コミュニケーション能力開発型の課題に取り組みするための教室です。



### ◎コラボレーションラボ

プロジェクト開発型課題を展開するためのグループ作業主体の教室です。



机やイスは可動式なので、普通の授業のようなレイアウトはもちろん、グループディスカッションのためのレイアウトにも簡単に変更できます。また、パネルによるポスタープレゼンテーションなども行えるようになっています。これらの教室には、プラズマディスプレイ（50インチ）5台、液晶プロジェクター、実習用サーバ・端末なども設置されています。

（まつもと・まこと 知識情報・図書館学類 教授）

## 図書館情報学教育に関する国際会議 A-LIEP 2009 スタッフ体験談

2009年3月6日から3日間、図書館情報学教育に関する国際会議 A-LIEP2009（2009年アジア太平洋図書館・情報学教育国際会議）が春日キャンパスで開催されました。20ヶ国以上から約240名の参加があった大規模な会議で、約40名の学生もスタッフとして活動し、国際交流と学術研究の現場を肌で感じる貴重な機会となりました。



会議最終日に学生スタッフ（後ろに整列）が参加者に紹介され、大きな拍手を受けました。

室田 一憲（むろた・かずのり 図書館情報専門学群4年次）

A-LIEPって何？と思いつつ、アルバイト！と聞いて二つ返事で始まった私のA-LIEPは、大変なことばかりでした。準備では外国の方に受けるお菓子はどれか、どのようにサインを作れば理解してもらえるだろうかと考えました。当日は当日で、会議が始まってみると外国の方に道や場所を聞かれて、慣れない英語でジェスチャーを交えて意思の疎通をはかったり、会議の参加者の動きを先読みして行動したりしました。しかし、会議を通して日本にいながら多くの外国の方と接することができたことは、自分にとって大きな経験になったと思います。この経験を生かして、道に迷っている外国の方に出会ったら積極的に声をかけようと思います。

清川 朝日（きよかわ・あさひ 知識情報・図書館学類3年次）

海外に住んでいた頃の経験を買われ、会議当日は案内窓口を担当しました。当然ながら、参加者からは多くの問い合わせを受け、多くの人と接しました。業務に慣れて余裕が出てきたころ、実に多様な国々から参加者がいたことに気がつきました。混乱でも起きないかと不安になりましたが、さすがは国際会議に出てくるような人たちです。慣れないはずのキャンパス内を平然と行き来していたことにはかなり感心しました。

大学に入り、自身の行動範囲は急速に広がったように思いますが、海外にいたころはもっと視野が広がったのだと思います。そんな私以上に、この会議に参加した人たちはいろんなところを飛び回っているのでしょう。

海外に住んでいた頃と、今回の会議。私は貴重な経験をしているのだと、今更ながら自覚しました。

## アイオワ州立大学での 研修をふりかえって

鈴木 佳苗

2008年7月末から約8か月間、米国アイオワ州立大学心理学部でメディアの影響についての研究を行ってきました。アイオワ州は米国の中西部に位置しており、アイオワ州立大学のあるエイムズは、州都であるデモインから車で50分ほどのところにある自然に囲まれた街です。アイオワ州は冬の寒さがとても厳しく、外に出ただけで顔が凍る、最高気温がマイナス20度（！）の世界を何度か体験しました。

アイオワ州立大学は広大なキャンパスを持ち、100以上の分野で26,000人の学生が学んでいます。心理学部では、テレビゲームを中心としたメディアの影響研究を行っているアンダーソン先生、ジェンティル先生のグループと一緒に研究を行ってきました。この研究では、メディア利用の影響にかかわる文化差についていくつかの要因を取り上げているのですが、研究計画を具体化する過程で、文化に共通する点、異なると考えられる点を議論したことによって、これまでの自分の研究結果をより深く考えることができたように思います。

このような研究の議論や日常的なコミュニケーションの中で、言葉の壁があっても、お互いに共通する知識・情報、関心を持っているからこそ通じることや、異なる知識・情報を持っているからこそ気づく新しい視点、関心の拡がりがありました。今後もさまざまな知識・情報に触れる機会を大切にして、研究を深めていきたいと考えています。

（すずき・かなえ 知識情報・図書館学類 准教授）



心理学部のあるLagomarcino Hall：  
ここが研究拠点になりました。



Memorial Union：フードコート、ブックストア、ホテル、郵便局などがあります。



アイオワ州立大学時計塔の夏と冬